

令和5年度 学校評価 自己評価書（前期）

- 1 学校教育目標
自ら深く考えて自己決定し、より良い言動がとれる子供を育てる。キャッチフレーズ「よく考え、よいと思ったらすぐやる」
- 2 学校経営方針
 - I 学ぶ意欲と姿勢、確かな学力の育成
 - II 豊かな心の育成及び教育環境の整備
 - III 健やかな体の育成及び安全・防災意識の高揚
 - IV 教職員の資質向上及び信頼される学校づくり
- 3 課題と改善策(数値は、達成度を%で表示)

評価対象	区分・評価項目	達成状況	教職員 平均	保護者 平均	児童 平均	評価結果と改善方策
学ぶ意欲 と姿勢、 確かな学 力	分かる授業	75.9	71.4	72.5	84.0	<p>頼りかめでなく、日々の授業充実し目を向けて工夫していきたい。支援員希望はあるが、回数に限られ、週1回程度が現状である。幼少期の大事な3年間(3～5歳)、丸々マスクを付けて生活してきた子供たちは、自分から意見を言うということが少なく、表情が乏しい。工夫して発表する場を設定する必要がある。</p> <p>小テストややり直しの徹底を行っている。定着率80%程度である。前時の振り返りや小テストを行う。話を最後まで聴くことを意識させている。授業の始めや終わりで振り返りの場を設定している。(音読やポストテスト等)学力差が見られるため、それぞれに応じた手立てを準備しておく必要があった。</p> <p>ICTを活用しながら、子供たちが意欲をもって活動に取り組めるよう発問や活動内容を工夫している。ICT機器をうまく授業に活用できていない(自分自身が操作が苦手なことが一番の課題)。</p>
	基礎・基本の定着		75.6	71.2	83.3	
	適切な評価		76.9	76.7	84.0	
	家庭での学習習慣・読書		70.4	66.1	78.0	
	ICT活用		71.3	67.1	90.0	
豊かな 心、教育 環境整備	キャッチフレーズ	78.5	75.6	67.5	77.5	<p>帰りの会で「今日の3S」の時間を設け、友達同士でよいところを認め合える時間を作っている。それに合わせて、1日1回は、子供たちのよかったところを褒めるようにしている。児童のよい面をできるだけ多く評価できるようにしている。3S、褒めることを心掛けている。</p> <p>掃除後に給食・昼休みがあると、帰るころには教室が汚れている。トイレの汚れが気になる。業間活動に変えたことで、教師・児童への負担感が増えた。5分移動の業間活動は、清掃や集会活動などに合わない現状にある。清掃も見つけ玉までできないことがほとんどである(2)。どうにかすべきだと感じる。放課後には、汚れているので再度掃除することも多く、業務が増えているような状況だ。職員の意見をしっかりと日課表に反映させてほしい。来年度の改善をぜひお願いしたい(朝活動に戻し、2校時後15分間休み、清掃は昼休み後が望ましい)。</p> <p>職員側から挨拶をするが、ほとんど返ってこない。</p> <p>言葉遣い(さん付け、思いやりのある言葉)の指導を継続したい。言葉遣いが、みだれている感じがする。先生方に対して、丁寧な言葉を遣えない児童が目立つ。</p> <p>登下校や学校での廊下歩行のきまりをしっかりと伝え、守れるように声を掛けよう努めた。</p> <p>自分たちで工夫した授業や行事、遊びなどで楽しい学校にしたい。</p>
	自己肯定感(3S)		79.3	66.8	75.2	
	自問清掃		78.7		83.3	
	あいさつ		79.9	69.8	87.2	
	言葉遣い		80.5	65.0	73.3	
	思いやり・親切		81.1	80.1	85.8	
	学校のきまりや約束		86.0	80.6	85.7	
	家族の一員としての役割		75.7	76.7	79.5	
	楽しい学校		81.9	85.5	86.7	
健やかな 体の育 成、安全・ 防災意識	睡眠・朝食	80.2	70.9	78.0	80.3	<p>運動遊びや筋トレなど楽しい体づくりを行う。体育部を中心に、環境が整っている。外での体づくりに取り組めていなかった。昼休みも教室で過ごす児童が多い。熱中症予防に気を付けながら、工夫していきたい。体づくりへの声かけがもう少しだった。縄跳び運動に積極的に取り組ませていきたい。</p> <p>昼休みは毎日外に行くように声掛けをしたが、行きたがらない児童もいた。静かにできる児童は教室内でもよいのではないかと。朝や昼休み時間、体づくりの呼びかけが足りなかった。給食時間のマスク着用は、コロナ禍になる前、全員マスクをつけさせていた。今後どのような形で進めるのか、共通理解を図りたい。</p>
	体力づくり		69.2	78.4	82.5	
	感染症対策		82.5	83.7	85.5	

	学校の施設・設備		81.6	75.7		チャイムの音が聞こえない。時計を見ながら行動させているが、つい時間が過ぎてしまうことがある。 プレハブ窓が開かない。開けたら閉まらない。開閉に時間を取られて無駄に時間を使い、非常にストレスである。 安心・安全な教室づくりを心掛けることができた。 安全点検の実施方法を考えてほしい。週3回の掃除時間にするのはどうかと思う。時間設定ができないのであれば、校内等は、1週間の中に学年部各々で校内等それぞれの場所を重点的に見て気付いたことを記入する等考えていけるとよい。
	学校の安全教育		81.3	81.0	88.0	外の渡り廊下等を全力で走っている。とても危険である。 2校時休みがなくなり、子供たちが遊べるのは、昼休みだけになった。時間いっぱい遊びたいという気持ちから、廊下を走ったり、階段を跳んだりしている子どもが増えたように思う。 健康安全を第一に思っ過ぎてしている。
教職員の 資質向 上、信頼 される学 校づくり	学校教育目標の達成	73.3	76.8			補教計画の立て方が、学年によりまちまちである。共通理解する必要がある(2)。 同じ学年でも宿題を出さない学級があるのは問題である。しっかりと揃えて宿題を出してほしい。 朝の活動がなくなり、8:30からの授業開始に間に合わない児童がいる。出欠確認の余裕がなくなった。以前までの日課表がよい。本年度の日課表では、業間に掃除や集会が入ったが、移動等でゆとりがないように感じる。連続した教科や学習活動が組みにくい。前年度の形に戻すということはやできないのだろうか。 2・3時間目続けて授業をすることができないので、時間割の調整が難しい。児童も移動教室だとトイレや水を飲む暇もなく、授業前から疲れていることもあった。 クラブ・委員会活動が月曜日になり、初任研の時間を重ねて設定することができなくなった。別曜日に初任研対応の補教を組まなければならず、子供たちへの学習に影響が出ている。水曜日のクラブ・委員会に戻してほしい。 はしを忘れる児童が多い。分かりやすい曜日固定してほしい。 毎時間のめあて、まとめの徹底、小テストの実施を行っている。時間配分ができず、まとめや振り返りができない日が多かった。 係で連携を図りながら、効果的な研修が進んでいる。 これまで校外研修に参加できなかったもので、興味のある研修を見つけ、積極的に参加したい。 研修会等に参加したいが、補教をお願いするとなると気が引ける。 体育やレクリエーションなど実技研修(体験)の機会を作る。子供たちにコミュニケーションの楽しみや運動遊びなど体験させてあげたい。 会計は現金で集めないようにしたらよいと思う。(バス代2000円として計算すれば全部K-NETで徴収可能では?)なくなったりしたら信用失墜につながるのではないか？ 日課表が変わり、毎日時間に追われる生活になり、業務改善になっていない気がする。 休み時間(昼休み)、事務室に子供たちが我が物顔でいるのはよくないと思う。電話連絡等個人的なこともあるので考えてほしい。 仕事をしっかりと行う。また保護者へ学校での子供たちの様子などを伝えたり(学級通信)、心配事等があったときはその都度連絡したりして、信頼される職員になれるように努めた。 コロナ禍も過ぎ、地域で行われる行事について、場所や時間、内容などを知らせてもらえるとありがたい。
	人間関係		80.5			
	職員会議		76.2			
	学校評価による改善		70.2			
	校内支援体制		68.5			
	係間の連携		70.8			
	各学年・学級間の連携		78.1			
	年間指導計画		77.4			
	授業日数や授業時数		80.4			
	まとめと振り返り		74.3			
	研修組織・効果的な研修		78.1			
	仕事の管理		75.0			
	業務改善		63.7			
	個人情報保護		85.1			
服務規律	89.3					
保護者への情報提供	81.0	73.6				
連携のための環境づくり	70.1	64.6				
保護者への対応	85.4	71.4				

4 後期に向けての取組

- 「よく考え、よいと思ったらすぐやる」(キャッチフレーズ)や「毎日、自分と友達に3S(さすが！すごい！すばらしい！！)」(一事徹底)は、児童にもだいぶ浸透してきているが、数値的には、まだこれからである。発達段階に応じ、自ら深く考えて自己決定し、よりよい言動がとれる基盤となる知識及び考え方を身につけられるよう、自己肯定感の高まりに繋がるよう、これからも全職員で全教育活動の中で取り組んでいきたい。
- コロナ禍も一段落しているが、マスク、手洗い、換気等の感染症対策への意識も高く、児童も確実な実施ができている。継続した取り組みを進めたい。一校一運動「なわとび」を中心として、体力向上にチャレンジできるように活動支援をしていく。
- 業務改善については、教育課程改善を始め、さまざまな工夫を図りながら、全職員で取り組んでいるが、数値的にも実感的にもまだまだこれからである。人員不足やデジタル化に伴う業務増加等の要因もあるが、校内支援体制とも合わせて、継続した取り組みを進めたい。

